

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ブランコ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日 ～ 令和7年12月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和7年12月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感をもって通所して頂いている 通所を楽しみにして頂いている 保護者の満足度が高い	安心して児童に通所して頂けるよう、日々全職員が心掛けて支援にあたっている。 それぞれの児童によって、身体的・知的機能レベルは様々である中で、楽しむことができる活動の提供を行うため、全職員が創意工夫している。	下記の事業所の弱みにも挙げた通り、活動実施後の振り返りと検証の機会を増やし、更に質の高い活動の提供ができるようになることを目指す。
2	生活空間の快適さ	決して広い事業所ではない中で、物品等の配置、空間の使い方、装飾などを工夫し、より快適に児童が過ごすことができるようにしている。季節を感じられる工夫、危険がないよう安全を保持する工夫等、全職員が気付きを共有している。	現在は事業所内で受入れられる利用定員数より少ない人数で運営しているので、定員数が増えた場合においても現在と同じ、それ以上の快適な空間を提供できるようにする。
3	支援プログラムと、活動予定や内容について 課題やニーズに合った個別支援計画の作成	充実した活動プログラムの提示と、多様な活動プログラムの考案と実施に職員全員が力を入れている。 ご家族が現在の課題やニーズを話しやすい関係性の構築と、個別支援計画の作成。	「楽しむ」だけではなく、人間関係・社会性、認知・行動、運動・感覚など、5領域を意識して活動の提供を行う。 職員と保護者が共通認識を持ってこどもに携わることを積み重ね、更に信頼関係を構築し、より深い課題やニーズを話して頂けるようになる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等児童クラブ、児童館との交流 地域の他の子供と活動する機会	毎年地域で行われている「昔遊びフェスティバル」に参加し、地域の他のこどもと交流の場を設けているものの、放課後児童クラブや児童館との交流は現在行っていない。	交流の機会を増やし、そういう機会があった時には分かりやすい方法で発信する。
2	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や、家族等も参加できる研修会、情報提供の機会等 こどもや家族からの相談や申し入れ	現在は家族支援プログラムや、家族等も参加できる研修会等を実施していない。 相談や申し入れについて、昨年度は月面談を実施していたが希望者が少ない為、今年度は面談希望がある場合はお声掛け頂く形に切り替えている。	専門性を持って保護者に対してペアレント・トレーニング等を実施出来るよう、相談や申し入れを受入れられるよう、知識や技術を向上させ信頼を得ていく。
3	支援の振り返りや業務改善等のPDCAサイクルの円滑な遂行	最善の支援に向けて計画を十分に練り、日々の支援に当たる体制は整っているものの、支援後の気付きを共有する場を現在は設けていないので、次の支援に活かすことが不得意な状況になっている。	支援後の振り返りや、職員の意見交換の場を設定し、次に繋げられる工夫を行っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所ブランコ

公表日 令和 8年 1月 16日

利用児童数 令和7年1月 32名

回収数 17名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2				主に重症心身障害児を対象とした施設の為、児童が過ごしやすいよう車椅子から降りて過ごすことが出来る工夫をしている。現在利用定員に応じたスペースは確保できているので、継続する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16			1		児童発達支援管理責任者、児童指導員、看護師、嘱託医等、専門職配置を行い重症心身障害児の受入れ体制を整えている。現在の専門職職員配置状況を維持し、支援の質を維持、向上していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1		1	出入口あたりが少しせまいのが気になります。ポコポコしているかな。	重症心身障害児や医療的ケア児、また重症心身障害児でない児童も、安全に安心して過ごせるようバリアフリー化しており、それぞれに応じた設備の工夫を行っている。現在の設備を維持し、更に情報伝達等に配慮した環境整備を今後の課題としていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1			いつもきれいでアロマが香り、楽しめて心地よいと思います。車椅子に乗りっぱなしにならないのが嬉しいです。	衛生面において、清掃や室温等にも留意している。固定化せず、常により過ごしやすい生活空間の提供を追求していく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17				子供に合ったやり方で、楽しめる様に工夫をされています。	他事業所や学校での様子を聞くなど、児童の特性を理解して支援できるよう工夫していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					支援プログラムと支援内容の相違がないよう、客観的な視点をもち、常に検討を行いながら支援の提供を行っている。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					情報共有をし、ニーズや課題に沿った個別支援計画を作成している。今後も継続していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			3		計画には必要な項目を適切に設定し、その上で、具体的な支援内容を設定している今後も継続していく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17				細かなところまで見てもらっていて、支援の内容もよく見直してくださっていて、成長に合わせて下さっています。	個々の計画内容を職員全員が理解し、支援に当たることができる体制整備を行っている。今後も継続していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17					活動が固定化しないよう、いろんな職員が活動内容を立案する体制を作っている。同じ活動でも違った素材を取り入れる等工夫をしている。今後も継続していく。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3		1	13	特に希望していません。	毎年地域で行われている「昔遊びフェスティバル」に参加し、地域の他のこどもと交流の場を設けている。放課後児童クラブや児童館との交流は現在行っていない。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					見学や利用契約時にはパンフレットや重要事項説明書等で全体的な内容を説明している。利用契約時に、利用者負担等について説明を行う体制を継続していく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16			1	保護者に沿って内容も考えて下さっていて、とても満足しています。	計画書を持参する、もしくはお送りして確認して頂いた後に、同意を得ている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15			1		現在実施できていない。支援している中で気づきがあった時にはその都度情報提供を行い参考にして頂いている。専門性を持って保護者に対してペアレント・トレーニングを実施出来るよう、知識や技術を向上させ信頼を得ていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17				親が見過ごすようなところにも気がついて下さり、とてもありがたいです。	発達状況や課題等を日頃から連絡しやすい体制づくりを行い、定期的に何うことで保護者との共通理解を持って支援に当たることが出来るよう工夫している。定期的に関き取りを行い保護者との共通認識を持って支援出来るようにしていく。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	1			送迎時に情報共有をしますが、とても相談しやすい。 定期的にも、日々の中にも助言して下さっていて感謝です。	初年度は月面談を実施していたが希望者が少ない為、昨年度以降は面談希望がある場合はお声掛け頂く形に切り替えている。今後も参加しやすい体制を模索していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17					昨年度は「いいえ」の回答もあったが、なくなっていたので改善に向かっている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	1	1	5		父母の会で開催される行事に参加したり、外部講師として参加することもある。保護者会やきょうだい交流は施設の環境面で開催が難しいため行っていないが、イベントを開催してご家族が交流できる場を提供している。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12		1	3		初年度は月面談を実施していたが希望者が少ない為、昨年度以降は面談希望がある場合はお声掛け頂く形に切り替えている。そのような場があることを周知していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16					保護者に対しては、どのような方法で伝達するのが分かりやすいか確認しながら情報伝達している。児童に対しては、情報を得ながら設備面での配慮を検討していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16				丁寧に発信して下さるので、わかりやすく助かっています。	毎月のおたよりやSNS、一斉配信メール等で、情報を発信している。今後も継続する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					業務上知り得た個人情報を漏らすことがないよう、職員には雇用契約時に取り決めを行っている。研修に取り入れ、個人情報についての共通認識が持てるようにしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14			2		利用契約時に、重要事項説明書記載の内容についての説明を行っている。具体的にマニュアルを提示しての説明は現在行っていない。保護者にも周知徹底出来るよう、機会や方法を検討していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12			4	しっかり行って下さっています。	非常災害や火災等の避難訓練を実施している。訓練は実施しているものの、保護者への周知が十分に出来ていないようなので、前回とは違う方法で避難訓練実施について発信を検討する。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15			1		安全計画について公表は行っていないので、周知する仕組みを検討していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			3		事故等が発生した場合は速やかに保護者に連絡する体制を整えている。今後も継続していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				楽しく通わせてもらっています。	児童が安心して通所できるよう、今後も現在の評価を維持できる体制を整備していく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16					児童が楽しみに通所できるよう、支援の提供を行って行く。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				とても満足していて感謝しています。	今後も満足して頂けるよう、いろんな意見を頂く機会を設け運営に反映しながら、現状維持、向上を目指して支援していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
多機能型事業所プランコ		令和 8年 1月 16日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	医療機器の配置等活動に支障の無いスペースの使い方で、安全にケアができるようにしている。	主に重症心身障害児を対象とした施設の為、児童が過ごしやすいよう車椅子から降りて過ごすことが出来る工夫をしている。現在利用定員に応じたスペースは確保できているので、継続する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	11		児童発達支援管理責任者、児童指導員、看護師、嘱託医等、専門職配置を行い重症心身障害児の受入れ体制を整えている。	児童発達支援管理責任者、児童指導員、看護師、嘱託医等、専門職配置を行い重症心身障害児の受入れ体制を整えている。現在の専門職職員配置状況を維持し、支援の質を維持、向上していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		重症心身障害児や医療的ケア児、また重症心身障害児でない児童も、安全に安心して過ごせるようバリアフリー化しており、それぞれに応じた設備の工夫を行っている。	「こどもにわかりやすく」という点では、それぞれの児童によって認知レベル等が様々であるため不明である。現在の設備を維持し、更に情報伝達等に配慮した環境整備を今後の課題としていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		毎日の清掃、消毒等徹底して行われている。活動に合わせて場所移動等されている。安全面においては、装飾や設備の配置などの工夫を行っている。衛生面において、清掃や室温等にも留意している。	固定化せず、常により過ごしやすい生活空間の提供を追求していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		プライバシーが守られる個室があり、活動部屋と繋がっていることから、何かあればすぐに対応出来る空間となっている。	個別の部屋や場所については限りがある為、使用できる人数にも限りがあることについては環境面で変わらなないので、使う時間などの配慮が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		職員に対して個別面談等の機会を設け、現在の課題が改善出来るようにしている。	職員間で、業務改善に関する共有の機会が現状ないので、そのような場を設けることを検討する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		毎年保護者向け、職員向け評価表の結果と、改善点について共有する会議を行っている。	すぐに改善するのが難しいことについての対応が遅くなるので、しっかり課題を解決できるように検討していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		職員に対して個別面談等の機会を設け、現在の課題が改善出来るようにしている。職員用評価表を活用している。	職員間で、業務改善に関する共有の機会が現状ないので、そのような場を設けることを検討する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	第三者による外部評価は現在行っていない。	必要があれば、今後そのような機会も検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	12		毎月社内研修を行い、出来る限り全職員が参加できるようにしている。	参加出来ない職員への研修の機会の確保と、研修内容の充実。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		支援プログラムはホームページに公表している。	職員間での検討や改善を行う機会を設ける。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		利用前のアセスメント、計画更新時のモニタリング、サービス担当者会議など定期的に情報共有をし、ニーズや課題に沿った個別支援計画を作成している。	客観的に分析できるように工夫する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		会議でスタッフ間の情報交換・共有の場を設け、個々の状況や家族の思いを把握できるようにしている。	なかなか現場職員から計画目標についての明確な希望などの案が出ることが少ないので、意見を出しやすい会議の工夫をする。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	内容の検討や確認を会議で行い、計画書をいつでも確認することができるようにしており、計画を共有する体制は整備出来ている。	全職員が全利用者の計画内容を全て覚えてはいないので、それぞれが定期的に計画内容を再確認し支援に当たる習慣づけが必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		発達障害児を対象としていないため、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントは行っていない。インフォーマルなアセスメントを使用し、確認している。	適応行動の状況についてアセスメントが必要になった場合に導入を検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		アセスメントで得た課題やニーズから、児童に支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容に結びつけている。	どの職員がアセスメントやモニタリングが行っても計画の一貫性を保つことができるようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		児童発達支援管理責任者が月のプログラムの大枠を決定し、担当者が具体的な内容を検討する体制を作っている。	担当者が内容を検討する際に会議のような場は設けていないので、相談しやすい環境設定があれば尚良い。

切 な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		同じ活動を提供し繰り返し行うことが大切なこともあると考えているため、固定化してはいけないという概念でプログラムの作成を行っていないが、同じ内容でも前回より次回、より良い内容で提供出来るよう意識している。	活動提供後の検討の機会が少ないので、次回に繋げるのが難しいため、提供後の振り返りが出来る体制を整備する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		全児童が個別活動・集団活動の両方に参加されており、全児童が個別活動、集団活動に参加できるよう計画を作成している。	児童のニーズや課題に合わせて計画を作成、支援を提供することを継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	支援開始前にミーティング等打ち合わせの時間を設定してはいるが、1日の流れを提示し全職員が動きを把握できる体制を整備している。変更があればその旨が伝わる体制を整備している。	口頭での打ち合わせ等は設けていないため、職員が個々で確認することが必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	支援終了後にミーティング等打ち合わせの時間を設定してはいるが、振り返りや気付いた点等共有できる体制を整えている。	小さな振り返りや気付き等を発信する職員が少ないので、発信しやすい環境設定を行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	1	日々の支援記録をとることを徹底している。	支援の検証・改善につなげることは今後の課題となっている。記録をとる職員が固定化されている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		大きな変化がある児童が稀なため、現在は半年に1度のモニタリングと計画の見直しののみである。必要があればより短期間でモニタリングと計画の見直しを行うことができる体制を整えている。	必要があれば定期的なモニタリング期間を短くする。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	いろんな活動を提供できるよう、工夫しながら支援を組み合わせ提供している。	職員がガイドラインの「4つの基本活動」について理解し、意識的に提供する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		活動の中で自己選択できる機会を設けるように工夫している。	意思表出が読み取りにくい児童の選択が、それぞれの職員によっての主観的な判断となる。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		児童発達支援管理責任者が参加し、他職員に支援に関する必要事項を報告している。	必要があれば児童とよく携わっている職員が参加することも検討する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		毎月囁託医の往診あり、地域の保健や医療について伺う機会がある。医療機関の講習会に参加するなどして、地域の重症児ケアの現状など情報を得ている。	継続して情報収集を行い、地域と連携する体制を維持していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11		保護者を通して知ることが多い。学校と直接連絡する事項については、こまめにやり取りを行っている。	必要がある事項に関しては、学校と直接情報共有を行うようにする。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		移行支援会議の場が設けられた場合には参加し、情報共有と相互理解に努めている。	移行支援に積極的に参加し、情報を得た上でサービスを開始出来ることが望ましい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		当事業所は放課後等デイサービスと生活介護を併設しており、卒業後もそのまま通所できる為、事業所内での情報共有が可能である。移行支援会議の場が設けられた場合には参加し、情報共有と相互理解に努めている。	移行支援に積極的に参加し、他事業所や学校における情報を得た上でサービスを開始出来ることが望ましい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		地域の公的機関が開催する研修に積極的に参加している。	そのような機会があれば、出来る限り参加する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	毎年地域で行われている「昔遊びフェスティバル」に参加し、地域の他のこどもと交流の場を設けている。放課後児童クラブや児童館との交流は現在行っていない。	参加できる行事があれば地域の民生委員やボランティアの方より声を掛けて頂けるので、積極的に参加していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	協議会が主催するネットワークに加入し、参加している。	積極的に参加できるよう体制を維持していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	送迎時や連絡帳でこどもの状況を伝え、保護者からの情報を得ながら課題について共通理解を持ち、支援に当たるよう心掛けている。	全職員が同じ認識で支援に当たることができる体制を整える。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	現在は行っていない。	専門性を持って保護者に対してペアレント・トレーニング等を実施出来るよう、知識や技術を向上させ信頼を得ていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	施設見学時や利用契約時に説明を行っている。	今後も継続していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		新規利用時の計画を作成する際にはアセスメントを行い、更新する際は必ずモニタリングを実施し、意向を確認している。	今後も継続していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書を持参する、もしくはお送りして確認して頂いた後に、同意を得ている。	今後も継続していく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	1	昨年度は月面談を実施していたが希望者が少ない為、今年度は面談希望がある場合はお声掛け頂く形に切り替えている。	どのような形で実施することが適切であるか、検討が必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		父母の会で開催される行事に参加したり、外部講師として参加することもある。保護者会やきょうだい交流は施設の環境面で開催が難しいため行っていないが、イベントを開催してご家族が交流できる場を提供している。	今後もできる形を工夫しながら、いろんな行事や対象者が交流できる機会を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		大きな苦情が現在のところない為、周知等行った例はないが、そのような場合があれば迅速かつ適切に対応する体制を整えている。	苦情があった場合の対応について、全職員が同じ認識を持つことができるよう、引き続き研修に取り入れていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		HPで活動予定や空き状況を発信、SNSで活動報告やおたよりを配信している。	今後も継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		業務上知り得た個人情報を漏らすことがないよう、職員には雇用契約時に取り決めを行っている。研修に取り入れ、個人情報についての共通認識が持てるようにしている。	今後も継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		保護者に対しては、どのような方法で伝達するのが分かりやすいか確認しながら情報伝達している。	児童に対しては、情報を得ながら設備や環境面での配慮を検討していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		アロマイベントを開催し、どなたでも参加できる行事を計画している。	今後も継続していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		職員に対しては入社時や研修時に周知している。保護者には利用契約時に、重要事項説明書記載の内容についての説明を行っている。具体的にマニュアルを提示しての説明は現在行っていない。訓練は定期的に行っている。	保護者にも周知徹底出来るよう、機会や方法を検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCPを策定し、必要な訓練は定期的に行っている。	今後も継続していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11		利用前のアセスメント時に、服薬や予防接種、てんかん発作等の状況を必ず確認している。	今後も継続していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		現在食物アレルギーのある児童は通所していない。	今後対象児が通所する場合は、指示書に基づく対応を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		安全計画を作成し、必要な研修や訓練等を実施し、安全に支援を提供している。	今後も継続していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画を提示した上で、取り組み内容の周知は現在行っていない。	周知できるよう体制整備を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハットノートを使い情報共有し、必要があれば会議の場で詳細を全スタッフへ伝達している。	今後も継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		研修や面談を行い、虐待を未然に防ぐことができるよう取り組んでいる。	今後も継続していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		組織的に決定した事項を入社時の研修や年1回の身体拘束研修の際に行っている。計画書に記載し、保護者から同意を得ている。	今後も継続していく。